

内 田 実教授を送ることば

文科学科学科長 芸 林 民 夫

本学科の内田実教授は、平成9年3月末日をもって定年を迎えられ、本学発展のために長くご尽力を戴きましたが、この度札幌大学女子短期大学部を退職なさいます。

先生は昭和2年3月に東京都の赤坂でお生まれになりました。昭和27年に明治大学文学部地理学科を卒業なさってから、東京保善高等学校の教諭に就任されました。さらに昭和30年から同35年にかけて母校で助手を勤められ、その後明治大学付属中野高等学校で教鞭を執られるとともに明治大学の非常勤講師となり、昭和42年、札幌大学の設立とともに札幌大学に赴任されました。

その後図書館長代理、短期大学部長、札幌大学理事、文化学科長、と多くの学内の要職をこなされると共に、学問面でも数々の輝かしい業績を残されました。札幌大学の産声を聞いてから、確かな教育者の目で日本の教育界の現状を把握して、大学発展の道を見出し、賢明な指導力によって今日の札幌大学に育て上げてこられました。

なかでも、短期大学部の文化学科と経営学科両新学科の発案から実現までの原動力となり、その御苦勞には実に大変なものがありました。為し遂げられた御仕事は非常に高く評価されています。大学主催による学生のための国内、海外研修を賛否両論の中で実現されました。これは現在の各学部が実施する研修旅行や学外のオリエンテーションの草分けとなっています。

また、日本教育界の私立大学の厳しい状況の中で、より機能的、より時代に合う大学を育てなければならないという切実な問題意識から、新しい学部を設置することを提唱され、大変な勞力を注ぎながら、その準備に大きな貢献をなされました。内田先生は5年以上も前から、新学部の構想に具体的な御意見を述べられ、各方面から重要な情報を幅広く集めておられたことを覚えています。これは、どれほど難しい、険しい道か誰にもわかりませんでした。しかし、内田先生の退職に際し、改めて先生の足跡を振り返ってみますと、先生が非常な苦勞を積み重ねてこられたことを実感させられます。今年の春に開く札幌大学の文化学部の生みの親となるわけですが、これこそが先生の長い教育者生活の結晶だと思います。

長い間ご苦勞をなさってこられた内田先生に、この紀要の論文をお礼として差し上げたいと思います。